

ミステリーバスの旅 2020

旅のチカラ研究所

2020年3月

旅のチカラ研究所 植木圭二

私たち夫婦は生まれて初めてミステリーツアーというものに参加した。と言っても日帰りバスの“いちご狩りミステリー”なので、ある程度は場所の予測はついてしまうが、それでもちょっとしたワクワク感があって面白い旅になった。

■ミステリーが始まる

1 ヶ月程前に行ったバス旅行で知り合った人がミステリーツアーを盛んに勧めてくれたので、帰宅してすぐに日帰りのバスによるミステリーツアーを申し込んでいた。

その頃から世の中は新型コロナウイルス感染症の影響でツアーが催行されるか心配していたが、人数は少ないものの何とか催行されることになり、今私たちはバスに乗って出発を待っている。大型バスに18人ということで私たち夫婦は横一列の4席を占有するゆったりしたバス旅が始まる。

バスは珍しい阪急交通社のラッピング・バスで、他のバスツアーがほとんど中止になったので私たちのツアーにまわってきたい。



(阪急交通社のブランド trapics のラッピング・バス)

バスは7時40分に横浜駅を出発する。添乗員は中年の女性で、マスクを取って挨拶をすると自らを芸能人の IKKO（イッコ）に似ていると吐露している。確かに似ている。うん、これからはイッコと呼ぶことにしよう。

イッコはこれから向かう場所やコースについてことさら秘密にしている。それがむしろ大根役者の演技のようで、いかにもわざとらしくて面白い。

横浜駅を出発して保土ヶ谷バイパス、おそらく東名に乗るのだらうと推理していた私の読みどおりバスは東名高速道路に乗る。

私はそのまま行って静岡方面だと思っていたが、海老名 JCT から圏央道に入り、見事に予想はずれる。妻は山梨かも知れないと言っている。それでも圏央道に乗ったということは山梨以外にも埼玉、群馬、栃木、茨城くらいまで私の脳裏に浮かんでくる。

バスは八王子 JCT から中央自動車道に入り談合坂 SA で休憩になる。「皆さん、この休憩場所予測していた人はいましたか？」とイッコはしてやったという表情をしている。それは妻も同じで、少し勝ち誇ったような顔をしている。

■ミステリー午前の部

バスは中央自動車道の大月 IC で降り、造り酒屋「笹一酒造」に立ち寄る。



酒造ならではの杉玉（すぎだま）がある。杉玉は酒林（さかばやし）とも言われ、杉の葉の穂先を集めてボール状にしたもので毎年新酒をしぼる頃に新しい杉玉を吊るし、時間の経過とともに緑から茶色へ一年をかけて色が変化する。従って緑色の杉玉は新酒ができたことを知らせるサインになっている。

杉玉の隣には山梨岡神社の大きな札がかかっている。この神社は山梨県の“山梨”の県名の由来になった神社なので相当に由緒正しい。しかしマイナーなので知っている人は少ない。

なぜそんなことを私が知っているかという、実は私の息子の嫁の実家が、その山梨岡神社の近くにある。そのために孫のお宮参りに訪れたことがある。

それにしても最初の訪問が酒造とは意表をつかれる。午前の早い時間から呑むことになるうとは・・・、これはたまらん。しかし呑むしかない。

工場見学をすることもなく酒造の人が約5分間の簡単な説明を行い、試飲と買い物タイムになる。単刀直入というか、双方の希望を正直に手取り早く叶えた時間配分は実に分かりやすい。

帰り際には、全社員総出で見送りする姿は久しぶりのお客さんだからだろう。新型コロナウイルスで大幅にお客さんが減っている。

バスは一般道を走る。そしてイッコーは「次の場所までお酒の酔いでひと眠りできますよ」と言っている。

ちょうどひと眠りするとバスは山梨県笛吹市の「甲斐一宮浅間神社」に到着する。

浅間神社という神社は至るところにあり“せんげん”と読むことが多いが、ここは“あさま”と読む。境内に十二支の石像があり十二支詣でができる神社で有名だ。この神社の起源は富士山の「貞観（じょうがん）の大噴火」を鎮静化するために 865 年建立されたというので、富士山に対して本殿が 90 度横を向いている。今は穏やかな富士山だが、古文書の記録に残っているだけでも 16 回も噴火している。その中でも貞観の大噴火は相当大規模だったらしい。

一宮（いちのみや）または一の宮は、平安から鎌倉時代にかけて格付けされた神社の社格で、その地方で最も序列の高い神社のことを一宮といい、その下には二の宮、三の宮などある。

実は私と友人で一宮巡りの旅を行うべく計画中で、関東地方の一宮については結構調べている。その旅は鉄道と歩きの併用の旅で、私が名付けた造語“ルール&ウォーキング”というもので、歩く距離はマラソンと同じ 42.195km を意識している。

■昼食&いちご狩り

浅間神社を出てバスに乗り、イッコーは「次の場所までは程々の時間で着きますから、そこで少し早い昼食になります」とよく分からない苦しい案内をしている。とにかく昼食らしい。観光施設も道路も空いているので予定はかなり前倒しになっている。

バスはまだ新しいちょっと派手な工場のような大きな建物にやってきて、駐車場に停車する。広い駐車場にはバスは 1 台も停まっていない。看板には「山梨 FUJI フルーツパーク」と書かれている。

昼食は海鮮バーベキューというちょっと珍しい食べ放題になる。海無し県の山梨で海鮮とは不思議だが、おそらく冷凍品なので海は関係ないかもしれない。金網が置かれてカセットガスのコンロを挟んで対面で妻と座り海鮮食べ放題の 60 分一本勝負が始まる。



牡蠣や帆立などの魚貝類の他にも野菜類、スパゲッティ、カレー、ご飯も食事会場の前の方にたくさん用意してある。フルーツパークなのでスイーツも豊富で、オリジナルのいちごのバウムクーヘンなどもある。半分以上は女性客なので人気がある

そして本日の目的のいちごは、この昼食会場の直ぐ隣に大きなビニールハウスが何棟もあり、その中がいちご狩り会場になっている。入り口で煉乳の入ったお皿をもらい中に入る。

いちごは低い草木なので、いちご狩りはかがんだ姿勢でいちごの実を取るものと思っていたが、苗床そのものが高いところにあり取りやすくなっている。さらに2段になっており、上下でいちごの種類が異なるという工夫がしてある。



通常は時間制限があるらしいが、何しろ今この社会状況で来場者も少ないので係の人は時間無制限だと言っている。しかし海鮮バーベキュー食べ放題の60本一本勝負を終えたばかりの胃袋にはそんなに余裕は残っていない。これは旅行社の作戦かと思いつつも、いちごの味に魅かれて皆は必死に食べている。

上の段のいちごの方が私好みで甘くてジューシーで美味しい。いちごの名前を聞いたが忘れた。

■ミステリー午後の部

満腹になりバスに乗ると、イッコーは「食後の昼寝でひと眠りをしている間に次の場所に着きますよ」と言っている。確かに満腹でひと眠りしたら、「鐘山の滝」(かねやまのたき)に着く。案内看板を見ると、ここは忍野村で富士吉田市との境界辺りにある。私も初めて見る滝で、その存在さえも知らなかった。

「さすが、ミステリーツアーだ！」とイッコーを誉めると、彼女は「一つくらい誰も知らないところに連れて来ないといけませんよ」と誇らしげな顔をしている。褒められるとこのツアーを企画した担当者が何よりも喜ぶという。

鐘山の滝はというと高さ3mくらいの双子の滝で迫力はあまりない。これは知らないだろう。



(鐘山の滝)

「ハーブ庭園旅日記」にやって来る。看板には富士河口湖と書いてある。いちご狩りをしたのは笛吹市で、鐘山の滝は忍野村なので、そして今度は河口湖というとまた戻ってきたことになる。普通ならば何を迷っているのかというコース取りだが、何しろミステリーツアーなのでそれもあるだろう。

この施設はあえて言えば女性好みだろうが、万人に好まれる洒落た感じの施設だ。ベストシーズンは5月～9月、夏がいいというが3月でも十分に堪能できる。

そのハーブ園の直ぐ前にある「赤富士ワインセラー」にも立ち寄る。目の前にあると言えばいいが、それを言わないでイッコーが「次は比較的近いですよ」と平然と言うのが面白い。

建物のエントランスにはワイン樽がたくさん置かれていい雰囲気になっている。ワインセラーと言うと聞こえがいいが、ワイナリーではないのでワインは造っておらずワイン販売所である。いくつか試飲させてもらってすぐに販売が始まる。午前中の酒造もそうだったが試飲と販売という双方の要望にストレートな対応で実に分かりやすい。

しかしながらあまり買う人はいない。それでも久しぶりの大型バスの到来はありがたいらしく店員の対応はすこぶる良い。

■帰路

帰りのバスの中でもイッコーは元気で、今回訪れた施設で売っていた土産物争奪のジャンケン大会が始まる。そんなに高価なものはないが、それでもその心配りはありがたい。

そしてそのジャンケン大会で、何と妻が優勝した。優勝景品で山梨のお酒を頂く。

帰りは目的地が明白だが、コース取りについて添乗員と運転手が相談して同じ道ではつまらないだろうと東名高速道路経由にしてくれた。その程度の権限は与えられているようだ。

イッコーの最後の挨拶は、この時期でもツアー催行して本当に良かったと言っている。涙が出る程嬉しかったという彼女の言葉は心の底からのものだろう。

■旅の記録

実施は2020年3月6日（金）、横浜駅出発解散のいちご狩りミステリーツアーの行程を記す。

7時30分 横浜駅集合出発、東名、圏央道、中央道経由で大月IC出る

9時45分 笹一酒造、甲斐一宮浅間神社

11時40分 昼食といちご狩りのため山梨FUJIフルーツパーク

14時00分 鐘山の滝、河口湖ハーブ園旅日記、赤富士ワインセラー

17時45分 横浜駅到着解散

旅行会社への支払い費用は日帰り昼食付で一人8950円、それ以外は横浜駅までの往復の交通費、昼食のビール代がかかった。土産は買わなかった。